

# 長崎・木版・風景——新収蔵の橋本興家と松崎卯一を中心に

2024年7月9日(火) - 9月23日(月・振替休日) 長崎県美術館 常設展示室第4室

2023年度、長崎県美術館は、長崎風景を題材とした4点の木版画を新たに収蔵しました。中央画壇で活躍した橋本興家(1899-1993)による戦後の浦上の風景3点と、長崎で教育者として、また市展や県展の審査員としても活躍した松崎卯一(1895-1972)による戦前の居留地の風景1点です。

橋本興家の作品は、このたび当館では初めて収蔵することとなりました。今回収集した3点の浦上風景のうち、今はなき長崎国際文化会館(長崎原爆資料館の前身)を題材とした作品は、国際文化都市・長崎の表象として興味深いものです。橋本の長崎来訪については今のところ何もわかっておらず、本展示を経て、今後、新たな情報が得られることが期待されます。

本展示では、その他、収蔵品から田川憲、上野誠、小野忠重らの作品を加え、木版によるさまざまな長崎風景を紹介します。



橋本興家《静B(長崎)》1961年

## ■作家解説

**松崎卯一(まつざき うち 1895-1972)**は、福岡県八女市生まれの版画家・画家(本名は卯市)。東京美術学校(現・東京藝術大学)の版画師範科を卒業後、1927年に版画教師として長崎市立高等女学校に赴任、1929年からは長崎市立商業学校でも教鞭をとりました。1933年に、長崎における創作版画のパイオニア・田川憲(1906-1967)を中心とする「詩と版画の会」の結成に参加。1935年には国画会展の第10回展に木版画が初入選し、第12回展まで連続で入選しています。1934年、市立商業学校の教え子で、松崎の影響により画家の道に進んだ池野清(1913-1960)を中心とする洋画団体・南光会の結成に参加。戦後も、草創期の県展や市展で審査員を務めるなど、長崎での美術振興に貢献しました。

松崎の作品としては、繊細な中間色で表した長崎の風景版画と油彩がごく少数知られているのみで、生涯についてもあまり多くのことはわかっていません。松崎は、今後、長崎県美術館で調査・収集を進めていくべき芸術家の一人です。

**田川憲(たがわけん 1906-1967)**は、戦前・戦後を通じて長崎で活躍した木版画家です。長崎市に生まれ、1923年に長崎市立長崎商業学校を卒業、木寺轍らと向日社を結成。1927年に画家を志して上京し、川端画学校等で学びます。しかし木版画家・恩地孝四郎(1891-1955)と出会って創作版画に開眼し、1929年に洋画から木版画に転向しました。1933年に長崎に帰郷すると詩と版画の同人を主宰、創作版画誌の刊行や版画講習会の開催なども行い、長崎における創作版画のパイオニアとなりました。1935年に国画会展と日本版画協会展に初入選、1941年には日本版画協会会員となります。戦中は従軍画家として中国に渡り、上海に居住して創作版画の会を創設するなどの活動を行いました。終戦後は五島(長崎県)と山鹿(熊本県)に滞在したのち、1949年に長崎に帰郷。以後は同地を拠点として、生涯にわたり洋館や唐寺のある異国情趣を湛えた長崎の風景を描き続けました。長崎県美術館では、2018年1~4月に、田川の没後50年を記念し、初の本格的な回顧展を開催しました。

橋本興家（はしもとおきいえ 1899-1993）は鳥取県八頭出身の木版画家。1924年に東京美術学校図画師範科を卒業。1936年頃、東京で平塚運一の版画講習会を受けたことをきっかけに木版画に開眼。東京府立第一高等女学校（現・都立白鷗高校）で教鞭をとりながら（1925年に着任し1956年に退職）、1937年の第12回国画会展に初入選しました。同年の第6回日本版画協会展にも入選し、以後、両展を中心に作品を発表しました。1938年には第2回新文展にも初入選しています。1957年の第1回東京国際版画ビエンナーレ展に出品して以降、ルガノ国際版画ビエンナーレ展（1962年）などの国際公募展にも出品し、ボストン美術館ほか欧米各地で開催された「日本現代版画展」にも参加。1974年に日本版画協会理事長に就任し、1980年に勲四等旭日章を授章しました。「日本の城」シリーズをライフワークとし、1978年に画集『日本の城』（講談社）を刊行。生前に愛媛県美術館と鳥取県立博物館に代表作を多数寄贈し、東京芸術大学大学美術館、そして故郷の鳥取県八頭町の橋本興家記念館にも多くの作品が収蔵されています。

上野誠（うえの まこと 1909-1980）は長野県川中島（現・長野市）に生まれ、1929年に東京美術学校図画師範科に入学。共産主義運動に影響を受けて学内改革運動に関わり、1932年に検挙・拘留を経て放校処分を受けました。その後、東京や郷里で綿製品仕上げ工や鉄道工夫、土工などの労働に従事し、その傍ら創作版画誌に感化されて木版画を始めます。1936年、国画会版画部に初入選し、1944年まで同展に出品。1937年、平塚運一を通じて出会った中国人版画家・劉岷により魯迅の木刻運動とケーテ・コルヴィッツの作品に導かれ、大きな影響を受けました。戦時中は学校教員として鹿児島や岐阜に赴任し、1945年に玩具デザインの職を得て新潟の魚沼に転居、1946年に日本共産党に入党。1952年、丸木位里・俊の《原爆の図》の新潟県内移動展を組織。同年に上京し本格的な制作活動を開始。1954年、第五福竜丸事件や広島への被爆者との出会いを契機に原爆をテーマとするようになります。1957年、第1回東京国際ビエンナーレで入選。1958年、日本版画協会会員となり、1959年、「ヒロシマ三部作」がライプツィヒ国際書籍版画展で金賞を受賞。1961年夏、長崎を旅行し、原爆病院を訪ねて被爆者たちを取材。同年秋に小品連作に着手し、翌1962年に連作「原爆の長崎」として発表しました。1970年には版画集『原爆の長崎』（新宿書房）を刊行しました。

小野忠重（おのただしげ 1909-1990）は戦前・戦後を通して活躍した木版画家。版画史家としても重要な仕事を残し、技法書も著して版画の普及に尽力しました。東京市本所区小梅瓦町（現・東京都墨田区向島）に生まれ、1920年代末から創作版画を始めました。プロレタリア運動やケーテ・コルヴィッツなどの影響を受けて版画の大衆化をめざし、1932年に「新版画集団」、1937年に「造型版画協会」を結成して活動。1940年代には制作をやめ、版画史研究に打ち込みます。戦後は版画史研究のかたわら制作を再開し、戦前と同様、市民の生活に根ざした題材を扱って版画の大衆化を追求しました。また、暗色を地色として色彩を刷り重ねる「陰刻法」を考案し、1960年代からは三角刀を使ったスピード感あふれる鋭い線の特徴とする作風を展開しました。陰刻法はまた一版多色刷りの技法でもあり（刷毛を使って一つの版を複数の色彩で塗り分けます）、刷りの一点一点で違いが生じるモノタイプの性格を持つもので、こうした独自の手法で各地の風景を描き続けました。1957年には第1回東京国際版画ビエンナーレ展に出品、1961年にはソビエト連邦で開催された第1回現代日本の版画展を機に同地を訪れ、ヨーロッパも巡遊しています。

## ■参考文献

- ・田川憲：『長崎の美術6 田川憲』（展覧会図録）、長崎県美術館、2018年
- ・橋本興家：『橋本興家 日本の城 全版画集』講談社、1978年
- ・上野誠：『上野誠 平和版画集 原爆の長崎』新宿書房、1970年／『上野誠全版画集』形象社、1981年
- ・小野忠重：『小野忠重木版画展 激動の昭和を版画とともに』（展覧会図録）、町田市立国際版画美術館、1993年／『小野忠重全版画』求龍堂、2005年

## ■出品リスト

・データの配列は次の通り。

番号／作者名（生没年）／題名／制作年／技法／サイズ（紙；イメージ）／備考／収蔵番号

・作品は全て長崎県美術館所蔵。

- |  |  |   |
|--|--|---|
| 1   松崎卯一（1895-1972）<br><b>龍舌蘭のある風景</b><br>1936年   木版・紙<br>27.6×39.0 cm；23.8×35.6 cm<br>2023年度新収蔵<br>A3ro0505 | 白井和夫氏寄贈<br>A3ro0482  | 12   上野誠（1909-1980）/上野適<br>（1939-）による刷り<br><b>夏草の川原 長崎爆心地付近</b><br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.9×16.9cm；5.7×7.4cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-17 |
| 2   田川憲（1906-1967）<br><b>大浦天主堂</b><br>1936年頃   木版・紙<br>42.4×34.2cm；40.9×31.2cm<br>白井和夫氏寄贈<br>A3ro0477        | 7   田川憲（1906-1967）<br><b>天のみどう再建</b><br>1959年   木版・紙<br>52.0×41.0cm；49.2×38.2cm<br>白井和夫氏寄贈<br>A3ro0484                     | 13   上野誠（1909-1980）/上野適<br>（1939-）による刷り<br><b>長崎風景</b><br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.8×17.0cm；7.7×4.3cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-20          |
| 3   田川憲（1906-1967）<br><b>南山手六番</b><br>1937年頃   木版・紙<br>32.9×41.0cm；28.8×37.4cm<br>白井和夫氏寄贈<br>A3ro0478        | 8   橋本興家（1899-1993）<br><b>静 A（長崎）</b><br>1961年   木版・紙   Ed. 2/60<br>63.1×52.7cm；60.6×49.3cm<br>2023年度新収蔵<br>A3ro0502       | 14   上野誠（1909-1980）/上野適<br>（1939-）による刷り<br><b>長崎風景 人間の丘</b><br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.8×17.0cm；4.9×6.6cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-21     |
| 4   田川憲（1906-1967）<br><b>カルノー商会うら</b><br>1959年<br>木版・紙<br>22.3×26.0cm；20.3×23.8cm<br>A3ro0036                | 9   橋本興家（1899-1993）<br><b>静 B（長崎）</b><br>1961   木版・紙   Ed. 2/60<br>63.2×52.8cm；60.5×49.2cm<br>2023年度新収蔵<br>A3ro0503        | 15   上野誠（1909-1980）/上野適<br>（1939-）による刷り<br><b>浦上天主堂</b><br>『原爆の長崎』より<br>1961/62   木版・紙<br>24.8×17.0cm；4.7×7.2cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-22          |
| 5   田川憲（1906-1967）<br><b>長崎原爆遺構（浦上天主堂）</b><br>1949/1951年   木版・紙<br>33.4×39.4cm；29.7×36.2cm<br>A3ro0418       | 10   橋本興家（1899-1993）<br><b>ある幻想 長崎連作の内</b><br>1987年   木版・紙   Ed. 21/80<br>46.8×58.6cm；41.0×52.7cm<br>2023年度新収蔵<br>A3ro0504 | 16   上野誠（1909-1980）/上野適<br>（1939-）による刷り   |
| 6   田川憲（1906-1967）<br><b>原爆への意志—浦上天主堂</b><br>1957年   木版・紙<br>41.1×34.4cm；39.5×32.9cm                         | 11   上野誠（1909-1980）<br><b>原爆像</b><br>『原爆の長崎』より<br>1961-62年   木版・紙<br>12.2×7.5cm；9.9×5.6cm<br>A3i0183-06                    |   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 長崎風景<br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.8×17.0cm; 5.9×4.9cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-23  | A3i0189<br>22   田川憲 (1906-1967)<br>坂本町 異人墓地<br>1955年   木版・紙   Ed. 32/50<br>30.5×39.5cm<br>白井和夫氏寄贈<br>A3i0208 |  |
| 17   上野誠(1909-1980)/上野遼<br>(1939-)による刷り<br>長崎寺町<br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.9×17.0cm; 4.7×5.6cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-24       | 23   田川憲 (1906-1967)<br>飛龍の屋根<br>1964年   木版・紙<br>35.5×40.2cm; 32.4×38.2cm<br>A3ro0028                        |  |
| 18   上野誠(1909-1980)/上野遼<br>(1939-)による刷り<br>長崎風景 館内町東部<br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.8×17.0cm; 7.4×3.5cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-26 | 24   田川憲 (1906-1967)<br>人間の丘<br>1957年   木版・紙   Ed. AP<br>46.2×51.8cm<br>白井和夫氏寄贈<br>A3i0207                   |  |
| 19   上野誠(1909-1980)/上野遼<br>(1939-)による刷り<br>長崎風景<br>『原爆の長崎』より<br>1961/62年   木版・紙<br>24.8×17.0cm; 5.9×6.6cm<br>繁澤政典氏寄贈<br>A3i0198-27       | 25   田川憲 (1906-1967)<br>人間の丘 (続 II)<br>1964年   木版・紙<br>43.0×52.0cm; 38.7×48.4cm<br>長崎市より寄託                   |  |
| 20   上野誠(1909-1980)<br>白雨の山門<br>1964年   木版・紙<br>52.7×38.8cm; 48.4×35.0cm<br>A3i0187  | 26   小野忠重 (1909-1990)<br>長崎の丘<br>1964年   木版・紙<br>47.5×64 cm<br>A3ro0053                                      |  |
| 21   上野誠(1909-1980)<br>長崎興福寺 (赤寺)<br>1965/1973年   木版・紙<br>51.8×38.7cm; 48.3×35.0cm   |  | -----<br>長崎・木版・風景——新収蔵の橋<br>本興家と松崎卯一を中心に<br>(リーフレット)<br>2024年7月9日発行<br>長崎県美術館<br>編集・執筆：福満葉子 (長崎県美<br>術館学芸専門監)<br>----- |